

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス開始以前からの理念であるが法人の理念に基づき、事業所独自の理念をつくりあげている。理念は掲示しており、いつも目にしてている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員も理念を意識しており、会議での話し合いや申し送り事項に反映して実践している。また、理念を具現化するための基本方針を職員で話し合っ作り、取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会において家族や民生委員、町会の役員に話をし理解や協力を求めている。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶したり、利用者が話しかける時はフォローし、付き合いを大切にすることに努めている。また園芸を通し野菜の苗や農作物をいただくこともある。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事や敬老会に出席したり、小学校の運動会に参加したり等してコミュニケーションを図り、積極的に地元の人々と交流することに努めている。		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、地域の高齢者に対してどんな支援が出来るのかを提示した。民生委員や包括支援センター職員とも連携して取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己の職務実践の振り返りや確認をし、外部評価の結果を踏まえてサービスの向上に向け改善に取り組んでいる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
8	5	運営推進会議を活かした 取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への 取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこ での意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月で開催しており、運営 状況(入退居、活動)を報告し、情報や意見、 助言を受けている。議事録を作成し、会議等 で検討されるサービスの向上につながるよう に努力している。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来 する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に 取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し「認知症サ ポーター養成講座」を地域で開催したり、市 や県から講演の要請があれば応じている。 千葉県グループホーム連絡会に参加し行政 との懇談会を定期的開催している他、不明 な点や相談は適宜電話で相談し、必要に応 じて直接市役所へ出向くようにしている。		
10		権利擁護に関する制度の 理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度に ついて学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合 い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法律や介護保険制度の見直しにより必須と なった権利擁護事業を知っており、必要に応 じて活用できるように支援している。地域で の勉強会や講演にも参加し、理解を深めて いる。		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ 機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごさ れることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を理解しており、事業所内での 虐待は絶対あってならないことであり、見過 ごされることもないように注意をし、防止に努 めている。身体拘束についての研修に参加 したり、ホーム内で勉強会を実施している。		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、 疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図って いる	契約の締結や解約の際は十分に注意を払 い利用者や家族等の理解・納得を得るまで 説明をしている。		
13		運営に関する利用者意見 の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部 者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がいつでも自由に何でも言える雰 囲気作りをして、発言を重視し、介護相談員か らの情報も得て、内容に応じて運営に反映さ せている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、 職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあ わせた報告をしている	家族の面会時や電話の際、運営推進会議等 で報告する他、緊急時や体調不良時等に随 時報告をしている。毎月の請求書送付時 には小遣いの明細を送り、使途を報告したり、 ホームでの各々の暮らしぶりが分かるよう な便りも発送している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等に気軽に話せる雰囲気作りを心掛けたり、家族会での話も代表より伺い、運営に反映させるようにしている。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員出席の職員会議を毎月開催し、職員の意見や要望を聞くようにしている。又、管理者が適宜面接を行っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出デー、通院などの予定の多くある日は必要に応じて、職員の同意を得て勤務の調整をしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時も出来るだけ長く勤務できる方を採用し、異動も出来るだけないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、職員の職種や経験に応じて研修の機会を提供し、職員のケアの質の向上に努めている。他のグループホームを見学し、学ぶ機会を作ったり、法人内での勉強会にも出席している。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて地域交流会を行い、地域での連携を図っている。情報交換・助言を得たり、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を活かして、サービスの質の向上に取り組んでいる。法人内の別のグループホームの入居者や職員との交流も図っている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は必ず確保できるよう配慮し、利用者とは別室で休憩を取れるようにしている。親睦会があり、食事会等を開催している。面接において、健康面、精神面について問題がないか把握している。職員の希望休や有給休暇を取れるように配慮している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を行い、定期的に振り返る機会や新たな目標設定を行えるようにしている。どの様に評価されているか職員にもフィードバックする。月間の目標を設定して、日々目標を持って働けるように配慮している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず本人と面接を行い、本人自身とよく話しをする時間を設けている。お話の中から、本人の主訴を把握し、表面に表れない部分も汲み取れるようアプローチする。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者との面接を行う前に、あらかじめ生活歴や現在の暮らしぶりを伺い、家族として利用者が望む暮らしについてどの様に考えているかを確認し支援計画に活かしている。入居前にアセスメントを行い、どのように支援していくかを家族に提示し、家族の要望について確認を行う。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話でも見学時の相談でも、まず話をお聞きし本人と家族の意向を把握し、その内容に応じたアドバイスをしている。必要なら利用を勧めている。担当のケアマネからも必ず話を聞くようにして、他のサービス等も含めてホーム利用が適切かどうかを判断する。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずホームに少し慣れていただくための支援から始め、本人や家族の意見を取り入れながら徐々にその人らしい生活ができるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を介護するというのではなく、毎日の生活を一緒にして感情も共有している。また人生の先輩として対応し、学び支えあい、信頼関係を築けるように努めている。理念においても掲げている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築 いている	職員は日頃の様子やちょっとした気付きなども報告し、家族からは今までの暮らし、性 格、好きなことなどの情報を得て一緒に支 えている。家族も生活の一部となってもらえる ような働きかけ、共に支える関係を築くように している。		
29		本人と家族のよりよい関 係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	家族構成や今までの関係をできるだけ把握 し、家族の名前を覚えたり面会時一緒に話を したりして、より良い関係が築けるように支援 している。		
30		馴染みの人や場との関係 継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関 係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知り合いの面会を自由に行っている。面 会時間に原則はあるが、会社帰りの夜に寄 られる方もいる。家族が併施設利用中 には、ホーム内で共に過ごせる環境を提供し、 夫婦で過ごしたり、面会に行く機会を設けたり している。		
31		利用者同士の関係の支 援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利 用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士自由に関わるだけでなく、気の合 う同士、話し相手になる関係を把握し、共に 過ごしたり支え合える機会を提供している。		
32		関係を断ち切らない取り 組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必 要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあ いを大切にしている	他の施設や病院に移られた方にも時折会い に行ったり、入居者をお連れして面会へ出た りと、支障のないようにつきあいをしてい る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め ている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望をことば(発言)や 行動から理解したり、言葉にできない表に出 ない思いを推測したり、家族とも相談の上職 員同士で検討し把握に努めている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これ までのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の書類や本人、家族からの情報を基 にセンター方式のアセスメントシートの一部 を家族に記入していただき、本人からのヒア リングも行って把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の 現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状況は日々変化するので、どん な小さなことでも把握するように努めている	○	自分の思い通りの言動のできない方や 不穏の方の心情をもっと理解できるよ うにしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の研修に参加して、今まで以上に本人のより良い暮らしのあり方を追い求めている。	○	アセスメントシートの枚数を増やし介護計画に反映させたい。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は保険期間に応じ個別に3～4ヶ月に1度、モニタリングされ必要に応じて見直し、状態の変化(急変時や回復など)に即した計画を作成するようにしている。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記している。朝・夕の申し送り時に内容を伝え情報の共有をしている。	○	もっと職員全員が個人の思いの推測や気づきを書いたり、介護計画に沿った内容を記録できるように研修を取り入れたい
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の通院支援や買い物支援、外出支援をしている。また状況の変化に応じて要望があれば、併設のサービスを利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	話し相手や将棋、ハーモニカや歌などの演芸に至るまで、幅広いボランティアの受け入れをしている。また民生委員の意見や助言を得たり、警察、消防等とも協力しながら支援している。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム内での対処が困難になってきた場合、本人や家族の意向に沿って、他のケアマネジャーや事業所と話し合いサービスを利用するための支援をしている。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の出席や日ごろから係わりを持ち、協力体制を得ている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関にて受診しているのはもちろんであるが、必要に応じて適切な医療機関を勧めることもある		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症に知見の深い医師であり、定期受診の際、日常生活の状態や変化などを報告しアドバイスをいただいている。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師に健康管理や医療活用の相談をするばかりでなく、併設の特養の看護職員にも相談することができ、適宜アドバイスを受け支援している。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は介護サマリーを提供し、定期的に状態を把握し、退院後のケアについてもアドバイスを得たり確認をしたりしている。医師から退院許可が出れば、受け入れ態勢を整え、速やかに退院出来るよう支援する。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針を本人や家族に提示しており、本人と家族の意見を尊重し、意向に沿うよう配慮している。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	他のグループホームでの事例を聞く機会を持ったり、グループホームでの看取りについての勉強会をビデオを参考にしながら行っている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の了承を得て、出来るだけ細かい情報を提供し、必要な支援を継続してもらえるように配慮している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>						
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また個人情報の取り扱いにも注意をしている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を言葉や行動、態度からも察するようにして、一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い自己決定できるように支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の流れ(食事や入浴、排泄など)を優先している。	○	限られた時間と人員の中で一人ひとりのペースや希望を大切にしたい個別ケアをもっと充実させられるように工夫していきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個性を尊重し、入浴時や汚れた時、気候や外出に応じて着替えをしている。また理容・美容は訪問を利用している。	○	その日の天候や気分によって好みの装いができるように支援したい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時盛り付けや配膳、後片付け、食器洗いなど利用者と職員と一緒にしている。また食事作り際には利用者の力に応じて、野菜を洗ったり切ったり、味見など一緒にしている。	○	職員全員が共にゆっくりと食事をし、その中で新たな発見をしてケアに役立ってほしい。また食事を栄養補給だけでなく、楽しみになるように支援したい。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒については、希望のある場合には対応するが、現在は特に希望される方が居ないので行事の時に楽しんでいただいている。飲み物やおやつは好みの物を提供し、楽しみの機会としている。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	なるべく失敗のない様にトイレ誘導のタイミングを計ったり、回数を増やしたりしている。また夜間も必要に応じてトイレ誘導をしている		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や職員の人数等の理由から、大浴場を使用して曜日や時間帯もある程度決めて行っているが、必要や希望に応じてユニットバスを使用している。	○	ユニットバスを使い易い様に整備し、一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を提供したい。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活習慣を継続し、昼寝をする方、早寝の方、遅くまでおきている方に応じてケアをしている。良眠出来るように就寝前の足浴を実施し、夜間の巡視は入眠状態の把握のため何度も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機の使用、食器洗い、洗濯物たたみ、裁縫、床掃除、食事作りの手伝いなどの家事仕事や、園芸、散歩やレクリエーションなどを利用者の能力に応じて支援している。		



項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じてお金を所持し使っている。個別の外出の際に支払いの見守りや支援をしている。	○	金額は少なくとも、使う機会をもっと増やし、できることを継続する支援をする
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	陽気の良い時には園芸をしたり、散歩やドライブ、買い物同行で出かけたりされている。その日の希望に対し、臨機応変に対応している。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別での野球観戦や家族との食事会やサーカスの観賞など出かける機会をつくり支援している。家族参加の外出デーも年に数回実施している。		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけたり、手紙を書いたりできるように支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はもちろん、親戚の方、知人などいつでも訪問していただけるようにして、本人の希望に応じてレストランやソファ、居室でゆっくり過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の意思で行動していることを止めること自体が拘束になるので、禁止の具体的な行為を理解してケアに取り組んでいる。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々の利用者、精神状態も含めて観察し、見守りケアの充実を目標に利用者個々の尊厳を大切に暮らすにしよう配慮しているが、職員の人数や利用者の状態により安全確保が困難な場合は施錠している。	○	他のホームの事例を参考にしながら検討を行う他、介護力をアップさせ、常に所在確認をして日中の鍵の解除をしていきたい。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを尊重して、日中でも夜間でも所在や様子の把握に努め、安全を確保している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	馴染みのものや必要なものを選び、気持ちの安定と空間の確保をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応マニュアルを作成し、速やかに対応できるようにしている。また勉強会を実施したり救命講習に参加したり、消防訓練を行っている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師を中心として勉強会を行っている。ホームにAEDを設置し使い方を学ぶと共に消防署主催の救急法の講習に職員が参加している。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の訓練は利用者共々定期的に実施しており、災害時には併設事業所や消防署、地域の人々の協力を得ることができるようになっている。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故防止委員会を設置し、一人ひとりに起こり得るリスクについて家族に説明し、対応策を話し合っている。必要に応じて骨折予防ベルトの購入やベルトの代替品作りの協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常日頃から一人ひとりの体調を把握して、変化や異変の早期発見に努め、気付いた際には口頭や記載での申し送りで情報を共有をし、対応している。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の近くに薬剤情報を置いてあり、いつでも見て把握できるようにしている。確実な服薬と症状の変化の確認に努めている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や運動を促したり、医師に便秘薬の相談をして対処している。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力でできない方には毎食後口腔ケア、夕食後は義歯を預かり洗浄剤使用にて清潔保持の支援をしている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を共にしてチェックしている。特に食事量の変化のある人や水分摂取の少ない人などは声かけをして促したり、飲み物を好きなものに換えて支援している。必要に応じて補食や好みの物を提供して体重の減少を防ぐ工夫をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。普段から衛生面には気を付け、状況に応じて手洗い、うがい、マスクの着用をしている。感染症が流行する季節には塩素剤を用いた消毒を毎日実施している。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理用具は乾燥機にかけている。食材は新鮮で安全なものを選び、食材の賞味期限や管理にも十分注意して提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の花を植えたり、新聞受けや郵便受けは木製の装飾されたもので、温かみのある物にしている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やベランダに季節の花を植えている。またテレビの音量の調節や南や西日に配慮し、適宜ロールカーテンを使用している。雛人形やクリスマスツリー等季節や行事に合わせた装飾も施している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳コーナーで横になったり、新聞を読んだりされている。またソファでテレビを観たり話をしたり、歌を楽しまれたりされている。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が家具や布団、衣類等使い慣れたものを持ち込まれている。分かる方は本人の意向に沿って居室内の物が配置されている。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個人、共有の場所とも入居者の状態や季節や気温に合わせて換気や温度調節に配慮している。夜間帯も小まめに巡視し、室温の確認をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レストランや廊下には余分なものは置かず自由に安全に歩行できる。階段の低い段差、手すりの設置、居室の広さの確保ができています。また寒がりの方は南側の窓際席にしたり、歩行力によってレストランの席を決め、自力で移動できるように工夫をしています。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室にネームプレートを掲げ、トイレのドアは絵や文字で分かりやすくしている。また色々な動作にはその人に応じて、見守りや声かけをして混乱しないように支援している。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と共に玄関周りやベランダに季節の花を植えたり、畑では農作物を育てている。見る、食べることも楽しんでいる。		

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己評価	外部評価	タイトル	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない